

ここからは品詞などの文法用語を、学校で習って来た学校文法と比較しながら日本語文法の特徴を説明します。また用法上の注意点なども可能な範囲で記載します。

学校文法とは : 我々が学校で習って来た文法（古典からの継続で体系付けられている）

日本語文法とは : 日本語を母語として使ってこなかった外国人の為に構築された文法で、
日本語を話すために必要最低限に簡略化して構築された文法

（文型重視＝文型文法）

＊学校文法で品詞はたくさん出てきますが、日本語文法は日本語を話すための必要最低限に簡略化された文法なので、主な品詞以外はあまり教えません。文法用語でなく例文をしっかりと教えて自分で使えるようになってもらうことが目的だからです。

「文法の体系を教えるのではなく、日本語を使えるようにすることが目的」

ですから形容動詞とか助動詞などの用語は使いません。

（日本語を話せない外国人には、文法用語そのものを理解して覚えることも負担になるので、

不必要な文法用語は使わないという配慮が必要です。我々が英語を学ぶ時も同じですが・・・）

＊学校文法で動詞の活用は5種類に分類されていますが、日本語教育では大まかに3種類です。

また学校文法で使われる未然、連用などの言葉は使わないで、会話でよく使われる「～ます」という形を「ます形」と言い、「～して下さい」という形を「て形」と言います。「てフォーム」という人もいます。

「て形」には、「～て下さい」の他に、「～ています」「～てあります」「～ていく」「～てある」「～てみる」「～ておく」「～てしまう」「～てあげる」「～てもらう」「～てくれる」などとても多くの使い方があり、「て形」のマスターは日本語学習では必須の学習項目となっています。（て形＋動詞：「て」の後の動詞のことを補助動詞と言います）

その他「ない形」「辞書形」「た形」「たり形」「たら形」「意向形」「命令形」などがあります。文の形そのもので「～形」という言い方をしているのです。

詳しくは動詞の活用の所などで説明しますがそういう「～形」というのが学校文法にない、日本語文法の特徴です。

基本的には外国人が日本語を話す時に使用頻度の高い順番で学習するようになっています。

＊他に疑問詞、接続詞、感嘆詞などありますが、用語そのものは使わないで、文の中での働きという観点から扱われています。

以下、品詞全体の説明の後、動詞など個々の重要な品詞について概説します。

1) 品詞 全般

学校文法では					日本語文法では
自立語	活用がある				×
	述語になる				
	ウ段の音で終わる	動詞	動詞		
	「い」で終わる	形容詞	い形容詞		
	「だ」で終わる	形容動詞	な形容詞		
	活用がない				
	主語になる		名詞(代名詞)	名詞	
	修飾語になる				
	主に動詞を修飾する	副詞	△		
	主に名詞を修飾する	連体詞	×		
	接続語になる	接続詞	△		
	独立語になる	感動詞	×		
付属語					×
活用がある			助動詞	×	
活用がない			助詞	助詞	
文法用語を減らすために					
* 形容詞を「い」形容詞と呼び、形容動詞を「な」形容詞と呼びます。					
* 連体詞、感動詞、助動詞などは使わず、副詞、接続詞は聞かれたら教える程度					
* 助詞は重要ですが、その分類は学校文法と異なります。(助詞の項で説明)					

参考に

動詞	英語で	verb	(または V)
い形容詞		い adjective	(または い A)
な形容詞		な adjective	(または な A)
名詞		noun	(または N)
助詞		particle	

動詞の活用 conjugation

形容詞の活用 declension

以 上